



# 街なかへの選好度を測定する心理尺度の検討 —複数地域の大学生を対象として—

第15回JCOMM(於 広島県立広島産業会館)

筑波大学理工学群社会工学類都市計画専攻 溝口哲平  
筑波大学大学院システム情報系 谷口綾子

## 背景・目的

- 中心市街地(以下:街なか)の衰退が叫ばれて久しい
- 街なか:商品の購入機会の提供に加え,活気を味わう,良いことが起こりそうな期待感など種々の付加的サービスを提供する「晴れの舞台」



▲仙台市中心部

## Research Question

どのような人が,そんな付加的サービスを有する街なかに惹かれるのか?

- 近年,街なかの付加的サービスが見直され,改めてその充実が目指されている e.g. 街路上のオープンカフェなど公共空間利活用,「ウォークブル」な街なか
- 今後,より効果的な中心市街地活性化の方策を検討するうえで,このResearch Questionを検証することは意義あるものと考えられる

## 研究の目的

- 街なかに惹かれる度合いとしての「街なかへの選好度」を測定する心理尺度(以下:街なか選好尺度)を作成
- 街なか選好尺度と既存尺度を用いて,街なかへの選好を規定する心理的特性を解明

## 仮説・質問項目の設定

### 仮説の設定

- 街なかへの選好を規定する心理的特性について,階層構造を仮定(右図)



### 質問項目の設定

- 階層ごとに,既存研究を参照のうえ,質問項目を設定(下表)

態度に関する質問項目	街なか,郊外SC,コンビニ,個人商店,商店街への態度を尋ねる項目(4項目,5件法)
第一階層の質問項目	青木に基づき作成した,街なかの付加的サービスの享受を指す項目(9項目,5件法) 大谷らによる地域感情尺度の項目(11項目,5件法) 萩原らによる地域愛着尺度の項目(4項目,5件法)
第二階層の質問項目	鮑戸による日本のヤッピースケールの項目(19項目,5件法) Sproles & KendallによるConsumer Styles Inventoryの項目(20項目,5件法)
第三階層の質問項目	羽鳥らによる大衆性尺度の項目(19項目,5件法) 羽鳥らによる人間疎外尺度の項目(5項目,5件法)
第四階層の質問項目	小松による幼少期の生活環境尺度の項目(6項目,5件法) 幼少期に街なかを訪問した記憶の有無を尋ねる項目(1項目,2択)

## 質問紙調査・回答の妥当性検証

### 回答の際イメージしてもらった街なかの定義が異なる調査Aと調査B

- 本調査では,回答の際イメージしてもらった街なかの定義が異なる「調査A」と「調査B」という2種類の調査を実施 ▶ 街なかの名称を回答してもらったうえで異なる設問を用意

#### 調査A

回答者が訪れたことのある街なかの名称を最高で3つまで記入してもらい,この設問で「答えたような街なか」をイメージしながら,街なかに関する設問に回答するよう要請

特定の街なかではない一般的な「街なか」に対する心理的傾向を測定

調査対象: 全国10大学の大学生  
北大(1),東北大(12),筑波大(42),千葉大(1),東大(7),慶大(1),青学(1),横国(1),富山大(9),京大(3)  
調査方法: インターネットによる配布・回収  
調査実施日: 2020年6月6日~6月29日  
有効回答数: 84

#### 調査B

回答者が「街なかと言われて思い浮かべる場所を,一か所」記入してもらい,その「街なかと言われて思い浮かべる場所,一か所」をイメージしながら,街なかに関する設問に回答するよう要請

回答者が思い浮かべた特定の「一か所」の街なかに対する心理的傾向を測定

調査対象: 全国8大学の大学生  
室工大(17),宇都宮(134),東大(10),理科大(18),富山大(18),京大(10),愛媛大(50),山口大(17)  
調査方法: インターネットによる配布・回収  
調査実施日: 2020年6月17日~7月9日  
有効回答数: 274

### 回答の際イメージされた街なかの妥当性検証

- 街なかの名称の自由記述回答: 街なかとはいい難い回答もみられた e.g. 佐野アウトレット, 小野田さんパーク

既存の指標を参考に,不適切な回答を除外

以降の分析では,有効回答のうち,条件を満たした調査Aでは81,調査Bでは236の回答を使用

## 因子分析・尺度の構成

### 因子分析

- 第一から第四階層の質問項目のうち,幼少期に街なかを訪問した記憶の有無を尋ねる項目,「態度」に関する項目を除いた94項目を対象に,階層ごと因子分析を実施
- 抽出された19因子を以て,各心理的特性の尺度とする

### 街なか選好尺度の構成

- 得られた尺度のうち表面的妥当性の観点から,下位尺度として右上の4尺度を選定「街なかが好きだ。」とは有意な正の相関,「郊外SCが好きだ。」とは有意でない ▶ 一定の妥当性

街なかでの精神的充足 ( $\alpha=0.823$ )		街なかへの愛着 ( $\alpha=0.895$ )	
質問項目	負荷量	質問項目	負荷量
街なかの活気を味わうのが好きだ。	0.792	街なかの雰囲気や土地柄が気に入っている。	0.835
街なかの雰囲気を楽しむのが好きだ。	0.780	街なかは,「自分のまち」という感じがする。	0.782
街なかへ行くことで,気分転換ができると思う。	0.741	街なかではリラックスできる。	0.762
街なかへ行くことが起こるかもしれない,と思う。	0.573	街なかには愛着を感じる。	0.721
街なかで人と会えるのは楽しい。	0.436	街なかにお気に入りの場所がある。	0.664
街なかに行くことで,流行を察知できると思う。	0.342	街なかに思い出がある。	0.594
街なかへの持続願望 ( $\alpha=0.889$ )		街なかに自分の居場所があるような気がする。	0.588
街なかに,いつまでも変わって欲しくないものがある。	0.847	街なかを歩くのは気持ちよい。	0.550
街なかに,なくなってしまうと悲しいものがある。	0.832	街なかの商店街をよく利用する。	0.403
		街なかの利便評価 ( $\alpha=0.572$ )	
		街なかは交通の便がよい。	0.728
		街なかは買物に便利だ。	0.647

- 本研究における「街なかへの選好」の定義:  
街なかで精神的な充足を感じ,街なかに愛着を持つうに,街なかのあり方そのものに対して「願い」を抱いていて,街なかを便利と評価していること

## 街なかへの選好の規定因の探索的検証

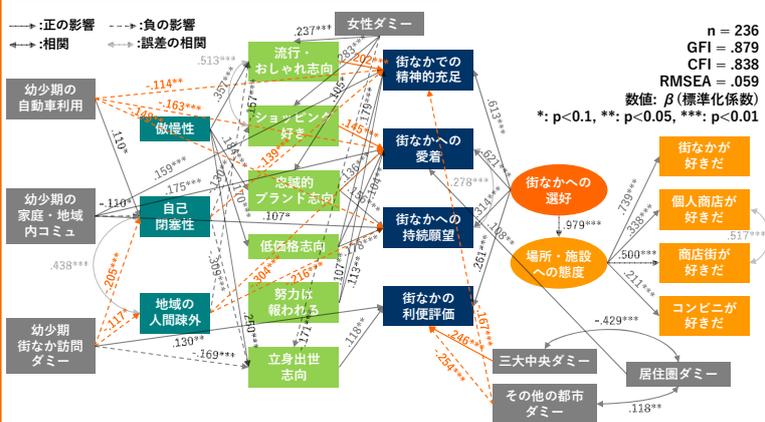
### 都市規模・居住地からの距離が回答に与える影響の確認

- 街なかに関する設問: 回答の際イメージする街なかが特定の一か所である場合(調査B),回答がその街なかの特性に影響を受ける可能性

街なかそれ自身が有する特性として,街なかの所在する都市規模,回答者との関係によって規定される特性として,回答者の居住地との距離を指定



### 調査Bの回答のみを用いた共分散構造分析結果



- 流行・おしゃれに敏感でショッピング好きな人は,街なかで精神的な充足を感じる
- 自己閉塞性の高い人は,街なかで精神的な充足を感じない
- 地域からの疎外意識の強い人は,街なかに愛着を持つことも持続願望を抱くこともない
- 幼少期に自動車ばかり使う家庭に育った子供は,成人後,街なかで精神的な充足を感じず,街なかに愛着を持つことも持続願望を抱くこともない
- 幼少期に街なかを訪問した記憶のある人は,成人後における自己閉塞性が低く,地域からの疎外を感じにくい ▶ 幼少期における,街なかという多くの人が往来する環境が,自己閉塞性や地域からの疎外意識の形成を抑制する可能性
- 街なかの利便評価は,イメージする街なかの所在する都市の規模が大きいと高くなり,小さいと低くなる
- 街なかを訪れることで得られる精神的な充足度は,イメージする街なかの所在する都市の規模が一定よりも小さな場合,低くなる ▶ 一定より規模の小さな都市の街なかは,相対的に付加的サービスを提供していない可能性

## 結論

- 街なかへの選好と,種々の社会問題の本質的要因とされる大衆性や疎外,およびその要因の一つとされる自動車利用との間に因果関係が示唆された
- 大衆性や疎外傾向,自動車利用の低減・抑制が街なかへの選好度を高める可能性
- 小規模な都市の街なかでは,もはや付加的サービスが提供されていない可能性(郊外SC,より規模の大きな都市の街なかにその機能が代替されている可能性)

活気を味わう,良いことが起こりそうな期待感 etc.